

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日～12月31日）の当社グループを取り巻く環境は、医薬品業界においては医療費抑制のための諸施策が引き続き推進され、食品業界においては消費の低迷が長期化していることに加え低価格志向の動きが激しく、それぞれ厳しい状況が続いております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は484億9千1百万円（対前年同期比0.3%減収）、営業利益は68億8千5百万円（対前年同期比2.4%減益）、経常利益は71億9千3百万円（対前年同期比1.9%増益）、四半期純利益は43億2千1百万円（対前年同期比11.9%増益）となりました。

医薬品事業では、前立腺癌治療剤「エストラサイト」、血管拡張性 β_1 遮断薬「セレクトール」は競合品の影響等により売上が減少しましたが、主力品である前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」が大きく伸長、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」、アズレン含嗽液「アズノールうがい液」も伸長し、平成21年7月に日本イーライリリー株式会社から販売権の譲渡を受けたED治療剤「シアリス」の売上も寄与しました。また、工業所有権等収益は減収となりましたが、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上は伸長いたしました。その結果、売上高は401億6千8百万円と対前年同期比4.2%の増収となりました。なお、当第3四半期においては、平成21年11月に粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN・0D錠4mg」、平成21年12月に粉末噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「エリザスカブセル外用400 μ g」及び肺動脈性肺高血圧症を適応とするホスホジエステラーゼ5阻害剤「アドシルカ錠20mg」を新発売いたしました。

機能食品事業では、加工食品業界、健康食品業界とも厳しい状況が続く中、健康食品素材は堅調に推移しましたが、たん白製剤とニュートリション素材は円高と乳たん白類の輸入原料相場の大幅な下落を販売価格に反映させたため売上が大きく減少し、売上高は83億2千3百万円と対前年同期比17.7%の減収となりました。

[研究開発の状況]

国内では、非麻薬性鎮痛剤「NS-315（一般名：トラマドール塩酸塩）」はがん性疼痛治療剤として承認申請中です。また、慢性非がん性疼痛への効能追加について、平成21年7月に第二相試験を開始しました。骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」については、平成21年12月に承認申請を行いました。アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」については、第三相試験を実施中です。日本イーライリリー株式会社から導入した「LY450190（一般名：タダラフィル）」については、同社が、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤として、第三相試験を実施中です。肺高血圧症治療剤「NS-304」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で第二相試験を準備中です。抗そう痒剤「NST-141」については、大鵬薬品工業株式会社と共同で平成21年5月に第一相試験を開始しました。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、米国では導出先のオプティマー社が第三相試験を終了し、申請に向けて準備中です。中国では導出先のリーズ・ファーマ社（香港）が第三相試験を準備中です。「NS-304」については導出先のアクテリオン ファーマシューティカルズ社（スイス）が平成21年12月に第三相試験を開始しました。サイトレックス社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第二相試験を準備中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は1,031億1千万円と前連結会計年度末に比べ48億2千4百万円の増加となりました。流動資産は、現金及び預金、繰延税金資産等が減少しましたが、受取手形及び売掛金、有価証券等が増加し、591億3百万円と前連結会計年度末に比べ15億2千5百万円の増加、固定資産は、有形固定資産が減少しましたが、無形固定資産、投資その他の資産が増加し、440億6百万円と前連結会計年度末に比べ32億9千8百万円の増加となりました。

負債は、賞与引当金等が減少しましたが、その他流動負債等が増加し、228億6千3百万円と前連結会計年度末に比べ9億2千1百万円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金等の増加により、802億4千6百万円と前連結会計年度末に比べ39億2百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.2ポイント上昇し77.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ22億9千7百万円減少し、131億4千9百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、28億2千9百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益74億円、減価償却費22億4千7百万円、支出項目では売上債権の増加35億3千7百万円、法人税等の支払額29億1千4百万円、その他の流動資産の増加13億1千7百万円、その他の引当金の減少12億6千4百万円です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、37億4千9百万円の支出となりました。主な内訳は、支出項目では、長期前払費用の取得による支出32億4千4百万円、有形固定資産の取得による支出9億9百万円、収入項目では、有価証券の償還による収入8億8千3百万円です。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、12億3千6百万円の支出となりました。配当金の支払い等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は概ね順調に推移しており、連結業績予想につきましては、平成21年11月10日の第2四半期決算公表時より変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、前連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。